

子どもと女性の健康相談室

64



福島医大ふくしま子ども女性医療支援センター教授
横山 浩之氏

これまでの本連載で、子どものメディアへの接し方について何度か紹介してきました。今回は、メディアによって、子どもの発達にどんな影響が及ぶのかを取り上げます。

ていなかのように見えますが、そうではありません。赤ちゃんはおなかがすいたとか、おむつがぬれたとか、困ったときには泣くしかできません。このように困ったとき

ぐずったときに、スマートフォンやタブレットによってあやされることが多いと、保護者を信用する代わりに、メディアを取りをいやがるようになって

しまいます。こうなると、対人関係や精神発達に多大な影響を与えてしまうことになります。具体的には、言語発達が遅れてしまったり、人とのやり取りをいやがるようになって

しまいます。こうなると、対人関係や精神発達に多大な影響を与えてしまうことになります。具体的には、言語発達が遅れてしまったり、人とのやり取りをいやがるようになって

言語、精神発達に影響

来にくる不登校の子どもは、メディアによる問題が一番の原因になっているからです。

次回8月9日掲載

実はメディアによる問題が最も大きいのは二歳未満の乳幼児です。言語発達や対人関係が遅れている場合には、発達年齢で評価します。すなわち、三語文（パパ、会社、いった、など）を使えるまでは、影響が極めて大きいのです。

赤ちゃんは何も学習していません。保護者に助けを求め、保育者を無条件に信用した方が良いという経験を積むのです。このことが、心理発達課題の愛着形成（アタッチメント、ボンディングなど）に必要です。以前も紹介しましたが、日本小児科医会が作成したポスターを見るところを問題点を理解

メディアと行動異常

スマホに子守りをさせないで！

赤ちゃんとお母さんが一緒に遊ぶときは、赤ちゃんの成長が促されます。

スマホを赤ちゃんに預けてアプリアイコンを触ると、赤ちゃんの成長が促されることがあります。

親子が同じものを見て遊ぶときは、親子の感情が通じ合います。

子どもがスマホを触ると、集中力が途切れてしまいます。

散歩や外遊びなどで親子一緒に遊ぶことは、子どもの成長を促します。

スマホを仕事で使うときは、赤ちゃんの成長が促されることがあります。

①公益社団法人 日本小児科医会

日本小児科医会が作成したポスター。メディアを使った子守りに注意を促している